

## 第3回 宇佐国東半島観光地域 振興広域連携プロジェクト推進協議会 開催

4月22日 第3回宇佐国東半島観光地域振興広域連携プロジェクト推進協議会が開催された。

新たに宮崎県高千穂町、一般社団法人 高千穂町観光協会、一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター、株式会社 minsora、吉本興業ホールディングス、大分ケーブルテレコム株式会社など、新しく参加した団体を含め25の団体が出席し、交流人口の増加、観光振興による地域活性を目指し「ポストコロナ」へ向けて新たな課題について話しあった。大分空港がアジア初の「宇宙港」として活用されるなど、当地域の観光・振興にとって、新たな魅力や可能性があるコンテンツを活用し、協議会としての取組みを再始動し、宇佐国東半島地域の活性化、大分県の地方創生へと取り組んでいく。



## 玖珠町、一般社団法人 おおいたスペースフューチャーセンター、 大分県信用組合包括連携協定締結式

7月4日 玖珠町、一般社団法人おおいたスペースフューチャーセンター、当組合の三者は、人工衛星のデータや先端技術を活用して玖珠町の経済活性化を目指す包括連携協定を結んだ。新たなブランド米の創出による農家の所得向上。山林管理、流域治水への衛星データ活用なども計画されている。今後はこの協定を活かし三者の関係を一層深め、宇宙を活用した町づくりを進めていく。



**包括連携協定締結・調印式 2022年7月**  
玖珠町 おおいたスペースフューチャーセンター 大分県信用

（写真左から） 公月測量設計株式会社 代表取締役 小野浩信 様  
玖珠町議会 議長 大野元秀 様  
大分県信用組合 理事長 吉野一彦 様  
玖珠町町長 宿利政和 様  
大分県西部振興局長 河野圭史 様  
大分県商工会連合会 副会長、玖珠町商工会 会長 原孝彰 様  
おおいたスペースフューチャーセンター 理事長 森秀文 様  
おおいたスペースフューチャーセンター 専務理事 高山久信 様

- 1 特集/TOP INTERVIEW  
菓子工房 月ヶ瀬  
株式会社 玉の湯  
有限会社 翔栄技建
- 4 キラリ、新風力 ふわり、爽風力
- 5 けんしん同友会企業紹介
- 7 けんしんTOPICS

新たな価値の創出



菓子作りから講師まで、忙しく活躍の遠江氏



右／窓から「月」のオブジェがのぞくメルヘンチックな外観  
左／天窓から心地よい光が差し込む明るい店内

大分中央ブロック同友会

[菓子販売業]

菓子工房 月ヶ瀬  
代表 遠江 豊氏

DATA

所 大分市長浜町3-1-18  
☎ 097-534-0491  
営業 9:00~19:30 休 火曜 あり



旬のフルーツを使ったケーキから昔ながらのシュークリームまでが並ぶ



ウエディングのニーズにも応え、こんな豪華なケーキも製作

経験を糧に移転オープン  
「月ヶ瀬」「大分」ブランドを構築したい

大分市金池町で、50年以上の歴史を刻んできた菓子店「月ヶ瀬」が、6月10日に同市長浜町に移転。コロナ禍で構想をあたため、心機一転、リニューアルオープンを果たした。

オーナーの遠江豊氏は、店の2代目。楊志館高校(旧大分桜丘高校)の調理科を卒業後、兵庫県洋菓子店で修業。阪神・淡路大震災をきっかけに帰郷し、創業者である先代と二人三脚で歩んできた。先代が店を始めた当初は和菓子の専門店、業界の発展に合わせて、洋菓子も製造販売するようになったと言う。時代が変わっても色褪せないその味はもちろん、良心的な価格でも多くの人々に愛されてきた。

移転への挑戦を決めたのは、先代が体調を崩し、昨年、惜しまれつつ他界したことがきっかけ。これまでの歴史と土台を受け継ぎながら、新たなステージに進むにあたって、「月ヶ瀬のケーキといえばこれだと分かるような、ブランドを確立したい」と熱

を込める。店舗で販売するケーキを作るだけではなく、週末にはウエディングの注文にも応えたり、また母校では講師を務め、後進の育成に貢献したりと、忙しい日々。こうした「さまざまな経験を積んできたからこそ、今、挑戦ができる」と胸を張る。実は、阪神・淡路大震災がなければ「もう少し県外で修業を積みたかった」という悔いもあったが、今は地元で長く経験を重ねられたことを幸運に感じていると語る。「置かれた環境が悪くても、自分自身の意思をもち、進み続ければ良いと思うのです」。

新しい「月ヶ瀬」は、長浜小学校の向かいにある。フクロウの羽根を模したという外壁がいかにも洋菓子店らしく可愛く、また明かり取りの窓からは、前の店から大切に移設した「月」のオブジェがニッコリとお客を迎えている。真新しい工房には、長年使い込んだ機械に加えて、ドイツ製のミキサーも仲間入り。看板商品の「シュークリーム」など従来の商品はそのままに、新商品

の開発も手がけていくそう。こだわりは、湯布院のモモや青森のカシスなど、産地で収穫される旬のフルーツを使うこと。「美味しい素材を取り寄せて、見た目だけでなく味にもこだわりたいですね」。安心して食べられる品質と、手頃な値段にも配慮し、「お客様から納得してもらえるケーキを目指す」と言う。また、県外発送が可能な焼き菓子も揃え、「大分を発信したい」というビジョンも描いている。そのアクセスポイントとなるWEBサイトも、近々制作予定。ショーケースでキラキラと輝くケーキの中には、遠江氏の夢がたくさん詰まっているようだ。

勤務歴の長いスタッフが多く、これまでも、県内外で活躍するパティシエを輩出してきて。昨年は、娘さんも店で働き始め、パティシエの修業中。次の世代に受け継ぐための店づくりは、勢いよくスタートを切った。

保養温泉地・湯布院の  
新たな価値をつくる挑戦



皆に「和泉さん」と呼ばれて親しまれる桑野社長。溝口薫平会長から、時間をかけて宿を受け継いできた

久大同友会

[旅館業]

株式会社 玉の湯  
代表取締役社長 桑野 和泉氏

DATA

所 湯布院町川上2731-1  
☎ 0977-84-2158 予約受付 9:00~22:00  
休なし あり <https://www.tamanoyu.co.jp>

湯布院は、世界に名を知られる保養温泉地。存在感は大きい、佇まいは小さく、暮らすように旅を楽しめることが魅力の一つである。今に続くまちづくりが始まって以降、まちを挙げて限られた資源を守り、また点在する宿は適正な規模を守り、変わらない「おもてなし」のあり方を貫いてきた。桑野和泉社長は、「規模に見合わないことをすると全てが崩れてしまう」と危惧し「そうならないよう、皆で持続する道を歩んできました。30年以上前から、いち早くSDGsに取り組んできた土地なのだと思います」と振り返る。名宿「由布院 玉の湯」のバトンを受け継いで19年。宿の名前に「由布院」と冠しているのは「このまちの一つの宿でありたい」という思いを込めていると言う。

とはいえこの20年は激動の時代で、市町村合併、リーマンショック、熊本・大分地震…と、世の中が大きく動くたびに経営は揺らいだ。そして、未曾有のパンデミック—コロナ禍で休業を余儀なくされた当初、桑野社長が何より心を痛め頭を悩ませたのは、宿が「不要不急」と定義されたことだった。「私たちの業界は人が移動することで成り立っている産業。それが否定され、役割や存在意義を問われた気がしました」。非常に重いテーマに直面し、将来に

ついて考える中で、まずは従業員の雇用を守るために行動。その覚悟が決まり、方法に目処がつくと少しずつ余裕が生まれ「お客様のために何かできることはないか」と思考が切り替わったそうだ。

「不要不急」という言葉に対して、明確な答えをくれたのは、やはりお客様だった。「コロナ禍でも旅をしたいと思ったときに、私たちの宿を選んでくださるということにすごく勇気付けられ、確かに役割があると感じました」。また、このような世の中だからこそ、新しい「気づき」も得たという。それは、保養温泉地として「人生の最期の旅」に寄り添うというビジョンである。

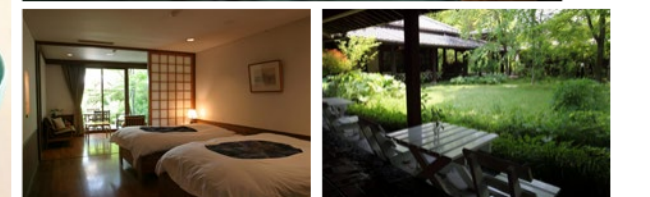
令和6年夏の開業を目指して「由布院 玉の湯」は、高齢者や病氣療養中の方が長期滞在できる宿を新設する予定。在宅医療・福祉関係者と連携し「もう一度旅がしたい」という願いに応えていくつもりだ。大切な人とお別れすままならないコロナ禍で「人が人生を終える時に、人や思いを繋ぐ役割を担えたら」と考えたことがきっかけ。実際、ホスピスで療養中の方が宿泊されたこともあるそうで、こうした経験からも構想が膨らんでいった。「湯布院のような小規模点在型の保養温泉地だからこそ、できることだと思うのです。市場ができれば必ずと広がっていくサービスだと思うので、私とその第1歩を踏み出せたら」と語る桑野社長。関連して、新しい宿に湯布院に相応しい料理を提供してくれる仕出し屋など、新しいビジネスを始めたい人材も求めている。「やりたいことが明確であれば、それに対する経営のアドバイスはいくらでもできる」…そう言って背中を押してくれた周囲の仲間たちとともに、新たな価値をつくる挑戦は、すでに始まっている。



地元の滋味を大切に料理。宿の味を家庭でも楽しめるよう、オンラインショップをリニューアルした



旅館温泉、暮らし、まち、医療。この5つが新たな試みのコンセプトとなる



左／数々の文人墨客が投じた宿。そのうちの一人C.W.ニコル氏の名前はカフェ&バーの名前に 右／「森の宿にしたい」とはもう一つの夢。まちにも「もつと木陰が必要」と唱える



事着工から引き渡しまで品質と安全に配慮し、丁寧かつ迅速な施工を行う



シンプルかつスタイリッシュな注文住宅



周囲の自然にナチュラルな白壁が映える高台の一軒家

杵築同友会

[建設業]

有限会社 翔栄技建

代表取締役 中村 博信氏

DATA

〒 杵築市大内4559-4  
☎ 0978-63-0120  
🕒 8:00~17:00  
📅 日曜 ☑️あり  
<https://shoueigiken.jp>

「当たり前のことをしてきただけ」と、照れながら語る中村代表



地域密着を強みに  
良い家を適正な価格で建てる

大工として経験を重ねる中で「一から住宅づくりに携わりたい」という気持ちが芽生え、独立を決意。平成8年に個人事業主として新たなスタートを切り、平成16年に法人化を果たした。以来、26年間に渡って中村博信社長が大切にしてきたのは、地域への揺るぎない思いである。中村社長が考える良い住宅とは、機能的かつ美しくあることはもちろん、良心的な価格であること。住宅性能の進歩はいつしか価格に転嫁され「良い家は高いもの」と考える住まい手も少なくないこの時代に「十分な住宅性能が備えられていたとしても、日々の暮らしが犠牲になってしまっはいけない」と唱える。住まいは家族が多くの時間を共有する場所。その時間が温もりに満ちたものであれば、人生はきっと豊かになるだろう。けれど建築費用が負担となり、将来必要となる教育費や老後の生活が圧迫されてしまっは本末転倒かもしれない。そう考える中村社長のモットーは、お客様の大切な資金を住宅本体にしっかりと反映させること。そのために宣伝広告費などのコストは最小限に抑え、自社の住宅

展示場は設けていない。さらに打ち合わせから現場監督、顧客管理までも自ら率先して行い、一人ひとりのお客様に最適な住宅を追求する日々。多くの住まいを手がけた大工として、そしてときに知識豊富な住宅アドバイザーとして「お客様の要望を可能な限り反映したい」と言う。最も得意とするのは新築住宅やリノベーション、増改築、バリアフリー、オール電化などの事業。加えて近年は不動産部門もスタート。土地探しから住宅の設計、施工、引き渡しまでのステップを自社で一貫して行うことによって、顧客の住宅購入にかかる総予算が明確になり、複雑な手続きを一本化できるようになった。そして何よりも、地域の気候風土を熟知した地場工務店による土地の提案は安心安全。細やかな周辺環境への理解は、無駄のない的確なアフターフォローにも繋がっていくはずだ。その姿勢はまるで、地域の“かかりつけ”工務店。ローコストでありながらも、お客様の本当に住みたい家、本当に住みたい場所にこだわり続けてきたからこそ、今では既存顧客や知人からの

紹介で仕事を受注することも少なくないという。今後は地域密着の特性を活かした家づくりや土地探しにより磨きをかけ、さらに「木造アパートなどの大型物件や、機会があれば地域資源を活かしたミニ開発などにも積極的に取り組んでいきたい」と夢を教えてくれた中村社長。昨年、他の建設会社での修業を経て実家に戻った長男・樹さんの存在も大きく、事業のさらなる飛躍を目指す。



中村社長を支える息子の樹さん(左)



コクエイ消毒 有限会社

代表取締役社長 長野 雄樹さん

入口に設置した「昆虫食」の自動販売機が話題の本



DATA

[消毒業]

コクエイ消毒 有限会社

〒 玖珠郡玖珠町山田194-4  
☎ 0973-72-5115  
🕒 9:00~17:00  
📅 土・日曜、祝日  
☑️あり  
<https://kokuei-pco.jp>

衛生環境を守ることがミッション  
業界の地位向上にも熱意

「地域の衛生環境を守りたい」という使命感から、昭和50年に創業。当時からシロアリやゴキブリ、スズメバチに代表される害虫の防除、小動物(ネズミ、イタチ、アライグマなど)を対象とする害獣防除や鳥害対策を続けてきた。こうした業務を「ペストコントロール(PCO)」と言うが、その専門業者はまだ全国を俯瞰しても数少ない。そんななか、玖珠町山田に本社、大分市ふじが丘に大分営業所を構えて一般住宅、飲食店、ホテル、病院などからの依頼に応じている。大分県内一円と県境の市町村までが守備範囲だ。

業務は目に見える害虫・害獣を駆除するだけではない。目指しているのはその侵入経路や生息状況を見極め、再発しない環境をつくることだ。毎回同じ手法というわけにはいかず「虫や動物との知恵比べです」とその苦勞を語るのは、2代目の長野雄樹社長。また、防除には薬剤を使うことにな

るので、周辺地域を汚染しない処理方法にも最善の配慮をしていると言う。

近年は、地球温暖化や発展した物流システムの影響で、以前の日本では見られなかった虫も確認されるようになった。虫たちは外国からの貨物に潜んで短期間で上陸し、日本の気候に順応しているのだ。また、本来は山に生息するシカやイノシシが人里に降りてくるようになり、動物に寄生するマダニの被害も増えてきた。こうした新たな事例も含め、どんな依頼にも安全に対応するため、常に情報収集と研究は欠かさず、スタッフ間でも共有していると言う。

依頼があったら最速でお客様のもとへ駆けつけることがモットー。そのためにも社内業務の効率化が急務で、すでに改革に取り組んでいるところだ。さらに、この業界の地位向上を目指して、ペストコントロールの知名度アップにも尽力する意気込み。「子どもが憧れるような仕事にしたい」と夢見ながら、これからはプロ意識に磨きをかけて、日本の衛生環境を守り続ける。

キラリ新風力 New Wind & Fresh Power ふわり爽風力

業界と地域の未来を見据え  
リーダーシップを発揮

ベスト電器のフランチャイズオーナーであり、国東市の安岐店と国東店、大分市のエコトラスト大分店の3店舗を経営している。家電部門の傍、工事部門では太陽光発電システムやオール電化システムの設置にも東奔西走。社名に「電化サービス」とうたっているものの、実は電気にとどまらず水道、土木、建築など建設9業種に登録しているのが最大の強みだ。例えばキッチンリフォームの依頼があれば、オール電化の設置から水まわりの工事までをワンストップで担えるのである。そのため「困ったら清末さんに相談してみるのが良い」と評判になるほど周囲からの信頼が厚い。社員十数名に清末保社長まで、フル稼働の日々だ。

数多くの資格を取得し独学で事業を拡大してきた勉強家の清末社長は、自社の発展とともに地域の発展も強く望んでいる。「仕事ばかりではなく遊ぶ場所も必要

と、関連会社で「カラオケCLUB DUM 大分杵築店」を営むなどして、飲食店や娯楽施設の経営にも参入。同店は近日リニューアル予定で、カフェと農産物直売処が新設されるというから楽しみだ。

また、人材不足に悩む業界の将来を見据え「これからは同業者のネットワークを強化するために、複数の業者がチームワークで業務を請け負うスタイルが構築出来たらよいと考えています」とも語る。その先駆け的事例として、国東市のケーブルテレビ網を光化する事業に組合で協力し、令和3年度末に無事終了。国東市から感謝状が贈られた。このように、清末社長は各業界の組合でリーダーシップを発揮しており、ベスト電器フランチャイズオーナー会でも九州地区の代表を務めている。ここ数年、コロナ禍で会議やセミナーが開催できずにいたが、技術や経営に関する貴重な情報交換の場になるため、「時期を見て再開したい」と意気込んでいる。「皆が良くなることで、当社も地域も良くなる」との思いを原動力に、今後は後進の育成も目指していくと言う。



有限会社 清末電化サービス

代表取締役 清末 保さん



ベスト電器SS安岐店に事務所を隣接している

DATA

[電気・管・土木・建設工事業]

有限会社 清末電化サービス

〒 国東市安岐町塩屋277-2  
☎ 0978-67-3934  
🕒 8:30~17:30  
📅 日曜 ☑️あり

飲食業 炭火烧肉 太平楽



店は都町の一角。さまざまなシーンに利用できる懐の広さと、良心的な価格でも人気

美味しさが笑顔をつくる焼肉店

おひとりさまから最大60名の団体まで、幅広い客層に愛される焼肉店。炭火で焼く質の良い肉、秘伝のタレ、自家製キムチ、種類豊富な本場のマッコリ…と魅力を挙げればキリがなく、毎夜、訪れる人たちの胃袋を掴んでいる。ゆったりと設けられた席はほとんどが掘りこたつ式で、そのうえ個室風の造り。肩肘張らずに食事ができる雰囲気も人気の理由である。暑い季節にもおすすめの料理は、特製の「部隊(ブテ)チゲ」。ソーセージ、野菜、豆腐、トック(餅)などが入った具沢山の鍋に、インスタントラーメンを投入した旨辛メニューだ。また、予算に応じるコース(1名2800円〜)や飲み放題(1.5時間1500円〜)もあるので、久々の宴会にぜひご利用を。48年前、大分市王子町で創業した「焼肉一番」がルーツ。これからも、多くの人々を笑顔にする店であり続ける。



大分市都町4-3-26  
都町コーポ1F  
☎097-537-1651  
🕒17:00~深夜0:00  
📅月曜 📍なし  
<https://www.yakiniku-taiheiraku.com>

飲食業 梅乃庵



家庭ではなかなか味わえない焼鳥が、人気のテイクアウトメニューの一つに

祖父母の代から続く味を守り続ける

日田市に創業し36年目の「梅乃庵」。昼は純手打ちうどんや定食の店、夜は「文治郎」と屋号が変わり焼鳥や一品料理を楽しめる居酒屋として、2つの顔が幅広い客層に親しまれている。うどんのつゆは4種類の鰹節を配合した独自の「かえし」が自慢で、初代店主夫妻から続く味。焼鳥も炭火で丁寧に1本1本焼き上げている。現在、店を切り盛りする若き3代目の梅山裕輝さんは「祖父母から受け継いだ店の味を守りつつ、たくさんのお客様にも喜んでもらえる店にしたい」と厳しいコロナ禍も焼鳥や弁当のテイクアウト事業を展開して売上を伸ばしている。さらに2022年6月下旬には屋号を「梅乃庵食堂」と改め、メニューも一新。昼は麺や定食、夜も焼鳥や居酒屋メニューに加え定食が味わえる食堂スタイルへとリニューアルし、より一層地域に愛される店として進化する予定だ。



日田市日高町1396  
☎0973-22-3393  
🕒12:00~14:00 / 18:00~22:00  
📅日・月曜 📍あり

不動産業 株式会社 大分かぼす不動産



平成27年創業。令和2年に都町から現在地に移転しており、オフィスは「第11名城ビル」の2階に構える

不動産が持つ可能性と役割を追求

南大分を拠点として、不動産管理事業を中心に行っている。心掛けているのは、オーナーと入居者の双方が満足できるよう、住環境を整えることだ。そのほか業務は不動産の賃貸・売買の仲介から販売、各種コンサルティングまで多岐に渡る。不動産の購入や売却は多くの人にとって人生の転機であり、ゆえに誰もが最良の選択をしたいと願うもの。「だからこそ顧客第一主義でありたい」と話す井上社長は、既存の空き家住宅や賃貸の空室といった資源の活用が地域の賑わいの創出にも繋がると考える。また、「不動産屋の仕事は住まいの提案だけに限らず、クリエイティブな可能性も秘めていると思うんです」とも語り、今年の6月より、独自のリノベーションブランド「私は絶対南向き」をスタート。そこから広がる生活を想像するだけで胸がときめくような、ユニークな視点が光る再生物件を取り扱っていく。



大分市上田町2-1-66  
第11名城ビル2F  
☎097-529-6660  
🕒10:00~17:00  
📅水曜 📍あり  
<https://oitakabosu-fudousan.com>

建築業 吉岡建装



基礎工事や解体工事も自社で行う。さらに吉岡康二代表は、大工技術を活かした木彫り作品の制作にも熱心に取り組む

作り手の顔が見える安心安全な家づくり

半世紀を超えて地域の「住まい」に関わり続ける、1970年創業の工務店。従業員は吉岡康二代表を中心に家族で構成され、それぞれが1級建築士や1級技能士をはじめとする高い技術を誇る。木造住宅ならではの自由設計と職人技が叶える家づくりは、お客様の要望に寄り添った多彩なプランが特徴。現在はバリアフリーや豊富な収納、吹き抜けといった、時代に求められる設計を積極的に取り入れる一方で、昔ながらの工法を大切にしたい大黒柱のある家や、丁寧な基礎づくりも得意とする。さらに今後は新たに従業員が取得した溶接資格を活かし、多様化する住宅ニーズへのさらなる対応に意欲。手すりや門扉などに使われる、ステンレスやアルミといった素材の溶接・取り付けが可能となるほか、寺社仏閣の修繕なども視野にこの先も技術を磨く。



市役所 山香庁舎  
山香病院  
中山香 10  
〒977-75-1431  
☎0977-75-1431  
🕒8:00~17:00  
📅日曜 📍あり  
<http://yoshioka-kensou.com>

飲食業 有限会社 ながお



洗練され、落ち着いた雰囲気の店内。ピアノやサックスの生演奏が流れる

社交場の灯を輝かすため努力

大分市都町の老舗「クラブ三清」を営んでいる。落ち着いた灯の下、深紅のソファを配した空間はクラシックで洗練された大人の社交場。ここで特別な時間を過ごそうと、県内外から多くのファンが訪れる。コロナ禍では数々の制約を強いられた上、風評被害にも苦しみ、当初は移転や縮小まで考えたと言った代表の長尾淳子さん。悩み抜き「出来る限り、いつも通りのことをしよう」との決意が今は「正解だった」と感じている。まちづくり活動を行う「華都会」のメンバーとしても尽力し、ウイルスと共存するために闘ってきた。また、華都会はかねてから子どもの支援にも力を注いでいる。徐々に来店客が戻りつつある今は、「限られた時間でもゆっくり過ごしてもらいたい」と願う一方、宇宙ビジネスにも着目し、おもてなしのプロとして貢献する術を思案中。社交文化の灯を消さないために、今後も「できること」を諦めない。



ファミリー マート 大分中央署  
大分県立美術館  
ハローワーク大分  
OASISひろば21  
大分駅  
〒大分市都町3-5-23  
☎097-536-0311  
🕒20:00~深夜0:00  
※要予約  
📅日曜、祝日 📍なし  
<http://clubsansei.com>

建具・型枠製造業 有限会社 あつだ指物店



「ヤンマーマリンインターナショナルアジア株式会社」にて撮影。写真はプレジャーボート

昔も今も暮らしに「寄り添う」ものづくりを目指す

釘などの接合道具を使わずに、木と木を組み合わせで作られた家具や建具はその昔「指物」と呼ばれ、大工仕事の花形とされていた。そんな指物屋をルーツとする「あつだ指物店」は、時代の流れと共にFRP樹脂(繊維強化プラスチック)に着目。1960年代後半に多くの木造船が廃船時期を迎えたことも追い風になり、次第にFRP船やプレジャーボートの軽量・高度強化を手助けする、型枠や調度品などの木製パーツを手がけるようになった。様々な形状に造形しやすく、厳しい気候条件にも耐え得るFRP樹脂は、現代の生活になくはない素材。そのため近年は船舶だけでなく、ユニットバスなどあらゆる分野に使われる木製パーツを受注するという。「良いお客様に恵まれ、今があると思う」と語る代表取締役の厚田庄治郎さん。北は周防灘、東は伊予灘に面した国東の海には、今日もその手技に支えられた多くの船が泳いでいる。



志成学園  
武蔵図書館  
武蔵東部浄化センター  
大分空港  
〒国東市武蔵町成吉702  
☎0978-68-1243  
🕒8:30~17:00  
📅土・日曜 📍あり